



「医療専攻」たより

新潟県立小出高等学校 キャリア教育委員会 最終号 令和3年4月5日

これまでのご支援、本当にありがとうございました！

3月19日（金）、小出病院2階講堂をお借りして、医療専攻発表会を開催しました。今年度は臨時休校やコロナウイルスの影響で、医療専攻行事の日程・内容変更が多々ありましたが、おかげさまで昨年度実施できなかった発表会を無事に終えることができました。お世話になった方々の前でこれまでの学習成果を直接発表できたことは、生徒たちにとって大きな経験になったと思います。

ご来場いただいた皆様、たいへんありがとうございました。

当日のプログラム

- 1 開会挨拶（司会：林 愛陽・佐藤 瑠菜）
- 2 アドバイザー紹介
- 3 医療専攻プログラムの紹介 発表者：内山 日向
- 4 グループ別発表（テーマ）「チーム医療・地域医療について、医療専攻を通して学んだこと」
 - ①「医療ソーシャルワーカー」
発表者： 関 日和 ・ 星野 夢 ・ 宮内 桃花
 - ②「看護師」
発表者： 金井 愛結 ・ 佐藤 朱莉 ・ 関川 ここな
 - ③「看護師・管理栄養士・救命救急士」
発表者： 羽賀 胡伯 ・ 水落 凜々花 ・ 鈴木 丞太郎
 - ④「助産師・薬剤師」
発表者： 林 愛陽 ・ 溝口 美憂 ・ 今井 玲那 ・ 佐藤 実二結
 - ⑤「理学療法士」
発表者： 佐藤 瑠菜 ・ 田中 琉叶 ・ 星野 美空
 - ⑥「臨床検査技師・臨床放射線技師」
発表者： 内山 日向 ・ 富永 香穂 ・ 古川 知聖 ・ 山本 愛香
- 5 医療専攻プログラム協力機関の紹介
- 6 講評・アドバイス
- 7 生徒代表挨拶：鈴木 丞太郎
- 8 学校長挨拶

〈発表の様子〉

「医療専攻プログラム」における体験を中心に発表を行いました。発表に向けて1月から構想を練り、調べ学習を進め、2月からパワーポイントの作成、3月には発表練習およびリハーサルを行い、わかりやすいように、そして見やすいように手直しを重ね、当日を迎えました。

初めてのプレゼンテーション。みんな緊張していましたが、これまで体験してきたこと、その体験から学んだこと、そしてさらに自分で考えたことなどを堂々と発表することができました。



<アドバイザー 布施院長様より>



すべての班の発表が終了した後、各班の発表について一班ずつ講評をしていただきました。

「発表会を通して、皆さんの1年間の成長を感じ取ることができました。医療は地域に人が住み続けるために最も必要な仕組みの1つです。その人材が小出高校から輩出され、数年後に同僚として迎え入れることができると望んでいます。」

生徒の感想（医療専攻発表会を終えて）

- ・自分が看護師になりたい理由は漠然としていたが、**医療専攻を受けてその理由が明確になりました。**
- ・医療専攻を通して**仲間の大切さ**を知ることができました。チーム医療はもちろん、活動する上で関わった人たちとのコミュニケーション、情報共有の大切さを学びました。
- ・働いていながら日々学び続けなくてはならないということがわかりました。**自分からすすんで勉強に取り組む姿勢を持たなくてはならないと感じました。**
- ・チーム医療とは、働いている医療従事者だけではなく、**患者さんやそのご家族も含まれている**ということが一番印象に残っています。患者さんやご家族の方々に安心してもらえることはとても大切だと思いました。
- ・コロナの流行や超高齢化社会に向かっている現状など、**医療現場における課題は深刻だが、そのような状況だからこそ、たくさん知識を身につけ学び続けなくてはいけない**と思いました。
- ・医療専攻では、医療従事者がどんな思いで患者さんと向き合っているのかを教えてくださいました。これは、**直接医療現場を見学・体験しないとわからないことだったので、医療専攻を選択してよかったです。**
- ・発表会の準備はとても大変でしたが、発表が終わった後は充実感がありました。私は人前で話をするのが苦手でしたが、そんな自分がすこし変わった気がしました。専門的な知識を得ただけではなく、**人として成長できた**と思います。



来場者の感想（アンケートより）

- ・体験内容だけではなく、改めて自分たちでも調べなおし、理解を深めていると感じました。
- ・「人を看る」という基本的事項をすでに高校生の段階で理解したということは、非常に頼もしく感じました。
- ・体験、見学、学びが結びつき、深い理解につながっていると感じました。
- ・将来医療人として魚沼地域のために共に働ける日がくることを楽しみにしています。

～あたたかいメッセージをありがとうございました～